

狭く深くに徹しよう

— 期末試験で100点をとるための基礎知識 —

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

学校だけではなく、いろいろなところでものごとを勉強する機会が、これからの皆さんの人生の中で数多くあると思います。そんな時には、ある一定の分量を勉強した段階で、必ず「テスト」が実施をされることが多いと思われまます。「テスト」は、先生が生徒を苦しめるためにあるのではありません。「テスト」は何のためにあるかといえ、それまで勉強したところを決められたテスト日までにもう一度勉強し直し、不確かであったところを確実に身につけるためにあると私は考えます。このように「テスト」も自分のためにあるものと積極的にとらえていただきたく希望します。

では、どのようにしたら、「テスト」でよい点数が取れるのか、今回は、身近に迫った2学期の期末試験で100点をとる方法に結びつけながら考えてみましょう。

2. 狭く深くに徹すること

(1) 「テスト範囲」を明確に推定すること。どのような教科で、どこからどこまでの範囲で出題されるか、科目ごとに一覧表にして、手帳にメモすることが第一です。中間試験の範囲の終わったところから、1ヶ月分が期末試験の範囲ですから、推定はそう難しくありません。中間試験のない科目なら、1学期の期末試験の範囲の次からです。

(2) 次にやるべきことは、テスト範囲につき、出題される教材のすみからすみまですべて暗記することです。暗記とは、そこに書いてあることをすべて空で言えるようになるまで覚えた上で、書けるまでにすることです。「そんな難しいことはできっこない」とはじめからあきらめないで下さい。皆さんの頭脳はとてもやわらかく、その気になれば、書いてあることくらい、いくらでも覚えられます。(残念なことに30才をすぎるところからこの記憶力はどんどん低下し、ものが覚えられなくなります。10代、20代は、その気になればいくらでも覚えられます。30才すぎると深く考える能力つまり思考力が「訓練によって」どんどん身につきます。どちらにしても、努力しないとダメです。)

(3) 最後に、試験範囲についての問題練習を大量にすること。教科書の暗記もしないで、問題ばかり解いても、本当の実力は身につけませんので、問題に取り組むのは、すべて暗記し終えたところからにして下さい。解答はすべて「ノート」に書き、間違った問題番号の上には印をつけておくことも大事です。試験直前には、間違い印のついた問題のみ、解き方や解答を暗記する位まで、ていねいにやり直すこと。

(4)勉強は時間との勝負なので、できるだけ早くスタートを切った方がよいことは誰でもご承知のことと思います。要は「気」を入れて真正面から「テスト」に取り組むことです。

3. おわりに

開倫塾の塾生である間に一生使える自己学習能力を身につけてもらいたい。どうしたら、「定期テスト」でも満点がとれるかをたえず考え、自分自身の学習方法を確立することが大切であると思います、この文を書かせて頂きました。がんばって下さい。